

第2回賀茂大橋デザイン検討会議 摘録

日 時：平成27年2月12日(木) 19時00分～21時00分

場 所：職員会館 かもがわ 3階 大多目的室

出席者：委員・・・9名(出口委員欠席), 傍聴者・・・1名

議事内容

1 開会

2 事務局より資料説明

- ・議題1 デザイン検討対象施設 歩道舗装について 資料 5, 7の説明

3 意見交換

- 事務局 ・まず、歩道に敷く素材について意見を伺いたい。
- 委員 ・御影石の場合、目地部にハイヒールのかかとか挟まったり、雨が降った時に滑ることもあるかと思う。アスファルトの方がよいのではないか。
- 事務局 ・北大路橋は御影石を歩道に敷いているが、目地を細く浅くしている。また、石の表面を滑りにくい仕上げとすることで、滑り抵抗の基準を満たす形にすることは可能である。
- 委員 ・京都のランドマーク的な橋なので、多少コストがかかっても御影石でよいと思う。
- 委員 ・擬石調ブロックは、ものによってはコストが高くなる。グレードを上げると石材と変わらないぐらいの値段になると思う。
- 委員 ・御影石が綺麗なのでよいと考える。
- 委員 ・自然の石の高欄があるので、舗装の素材も自然の石を使うということでよいと思う。
- 委員 ・コンクリート製の擬石調ブロック等は、汚れた際に黒いカビがつくなど、時間が経つとやはり汚くなる。石の場合、時間が経ち、汚れがついても、自然な風合いとなる。石を使う方が安心だと思う。
- 事務局 ・賀茂大橋は、現状で良質な石製高欄が設置されているので、今回の整備に当たっては、この石製高欄に合うように、同じく石製の舗装を敷くのがよいのではないかと、という視点で提案している。
- ・多くの委員から、歩道に敷く素材については御影石がよいとの声をいただいたので、御影石を基本として今後検討を進めていきたい。次に、歩道舗装のデザインを議論させていただきたい。
- 委員 ・石のサイズが600×300となっているが、少し大きいと思う。八坂の塔付近やねの道などの大きな幅員の通りでは比較的大きなサイズが使われているようだが、賀茂大橋付近はもう少し小さな方がよいかもかもしれない。歩道幅が広くないので、

あまり大きな石を置くと風情が無くなるのではないか。どういうイメージで 600×300 のサイズとしているのか？

事務局 ・ 舗石でよく用いられている大きさが 600×300 であり，賀茂大橋でもこの大きさが収まりがよいと考え，事務局案として提案した。サイズはこれより大きくすることも小さくすることも可能である。

委員 ・ 北大路橋はどうだったのか。

事務局 ・ 北大路橋は 600×300 と 600×450 を採用している。

委員 ・ 色は白と黒と二色しかないのか？

事務局 ・ 石の色は，白に近いグレー色の「白御影」と，黒みがかったグレー色の「黒御影」，ピンクがかった「さくら御影」，黄土色に近い「さび御影」が一般的である。

委員 ・ いずれの案もよいと思うが，道のどこかにオレンジ色の石をひとつ入れておくと，人々の間で「なんでこんなところにこんな色があるのか？」と，謎が謎を呼んで話題となり，有名にならないかなと思う。

委員 ・ この付近の活性化に繋がると思うので，私も今の意見に賛成である。

委員 ・ 私は反対で，落ち着いたものの方がよいと思う。

委員 ・ 黒色だけでも 80 色あると言われており，色の選定は難しい。ただ，橋の中でこの「色の選定」の視点が一番肝心なところと考える。

委員 ・ A 案と B 案は，目地が真っ直ぐ通っている。そうすると，道に対して視線が真っ直ぐに通ることとなり，通行者の心理として落ち着きと安定を与える。その意味では，C 案は，目地がバラバラになっているので，少し落ち着かない印象になる可能性がある。

・ 色についても，多様な色相を混ぜることは，アイデアとしては面白いと思うが，本物の御影石を使うとなると，色のバリエーションがないので，人目を引く色に見えないものとなる。

・ 彩度の高い目立つ色を入れると，顔料が何かを混ぜることになるが，落ち着かなくなり，浮き立った遊園地のようなデザインになってしまう。

・ 現実的には，御影石を敷くのであれば，落ち着いた印象を与えるシンプルなデザインがよいと考える。

委員 ・ 石の重厚さが分かる，落ち着いた雰囲気の方がよいと考える。

事務局 ・ 事務局としては，橋の落ち着きという部分で A 案か B 案のいずれかがよいと考えている。石材の大きさは，専門家に聞くと 300×600 が一般的な大きさであるとの話も伺っている。

・ これまでの意見を聴くと，落ち着いた印象を持たせながら，単色ではなく，複数の色を使う方がよいとのことであった。これを踏まえ，B 案を基本として今後検討を進めていきたい。

4 事務局より資料説明

・ 議題 1 デザイン検討対象施設 桁塗装色について 資料 5, 7の説明

5 意見交換

- 委員 ・石の色と一番合うのは、落ち着いて見える A 案だと思う。B 案のベージュ色は少し明るい感じがする。
- 事務局 ・各案について、今の色をベースに、色をもう少し明るくするとか、暗くするといったことは可能である。お手元の色見本帳を参照に意見をいただきたい。
- 委員 ・北大路橋で塗装色の選定を行った際は、実際に橋に3色を部分塗装して1ヶ月後に多数決で決めた。個人的には色は経年変化していくと考えるので、経年年数による色の变化も踏まえて考えるべきである。10年、20年先でも退色の少なく、あまり目立たないような色がよいと考える。
- 事務局 ・昔と比べ、今は塗装の耐久性も向上している。もちろん紫外線により多少色は退化するが、その色が大きく変わることは、以前より少なくなっていると聞いている。
- 委員 ・北大路橋の桁の色の検討の際に委員として参加した。
・一般的に、A案の色系はグレー系の石に合うということで、このような色を選ぶのが普通だが、北大路橋の時は少し冒険してみようということで、京都の伝統色から選び、紫と認識できるぎりぎりの、低彩度の薄い紫色を採用した。
・現在、約8年経っているが、塗装の耐久性が昔に比べ向上しており、それほど汚れていないため、今でも紫ということは認識できる色合いが保持されている。
・そのため、C案のような青い色を選んだ場合、退色も少なく、元の色のまま残る可能性はあるかもしれない。
・一般的には、建築物の塗装で明度8を超える明るすぎるものは使わず、8以下が景観のコントロールの基準になっていることが多い。
・そういう意味で、B案(ベージュ色)にしてもA案(グレー色)にしても明度を8よりも少し下げると安全であると思われる。
・例えば2.5Yの8.5/1とか8/1はどうか。場合によってはYRも考えられる。YRの8.5/1.5とかはどうか。
- 委員 ・B案は少し汚れやすそうに思う。C案は少し冷たい感じがする。やはりA案がよいと思う。
- 委員 ・A案は冷たい感じになる。現状も冷たい印象を与えている。
- 委員 ・橋脚の色もきれいになるのか。
- 事務局 ・橋脚をコンクリートで巻き立てるので、色はきれいになる。
- 委員 ・B案がよいと考える。できれば、河合橋を補修する際にも、この色に合わせてほしい。
- 委員 ・B案はちょっと主張が強いと感じる。せっかく補修するので、変わったという評価をもらいたいが、現況の色のA案がよいと考える。
- 委員 ・北大路橋の時に3段階ぐらい試し塗りしてみて、明るさはどれがよいかチェックして決めた。
- 事務局 ・少し時間が空くが、工事の段階であれば、試し塗りはできる。
- 委員 ・無難なのはA案。石の色合いとも非常に合う。

・賀茂大橋の特殊性として、三角州で子供が遊んでいたり石を渡っていたりするので、近くから見ることもある。

・A 案は離れて見ると高欄等と調和するが、近くで見ると冷たいという印象も確かにある。

・そこを改善しようと思うと、B 案で明度を落とす考え方もある。

・どの風景からの見え方を重視するかの判断で選択が変わると思う。

・近くから見た時には B 案の方が少し明るい印象や軽々とした印象を与えるし、一方で、石との組み合わせを考えると A 案かと思う。

・高野橋で使用されているような耐候性のような焦げ茶色の色は、少し重たい印象を与えるが、ボルトなどが目立たない等の利点もある。

委員 ・三角デルタは、3 つの橋が同時に見え、非常に珍しい光景である。

・この 3 つの橋をどのように演出していくか。

・出町橋にも親柱に灯籠があれば、3 橋が同時に照明され、囲まれたよい空間になると私は考えている。

・だから、3 橋を同じような色で統一するのか、それぞれの個性を出すのか、少し検討の余地があると思う。

委員 ・一回塗ってみないとわからないが、5P8/2（薄い紫色）ぐらいがよいのではないか。これであれば落ち着くと思う。

事務局 ・委員の皆様からは、3 つの橋を統一的にひとつの空間として考えていくというのであれば B 案、石製高欄との色合いが合うのは A 案、C 案はあまりこの場所には合わないといった意見をいただいた。

・そのため、今後、A 案、B 案を基本として検討を進めていきたい。

・ただ、北大路橋の時は試し塗りをして色合いを決めたとの意見もあるので、工事の段階で試し塗りを行うこととし、その際にまた委員の皆様のお伺いしたい。

6 事務局より資料説明

・議題 1 デザイン検討対象施設 歩道灯籠照明色について 資料 5, 7の説明

7 意見交換

委員 ・今の時代であれば、ナトリウムランプではなく LED ランプで計画されてはどうか。

事務局 ・今回の改修で LED ランプへ変更する。

委員 ・揺らぎ照明の採用は考えているか。

事務局 ・北大路橋では揺らぎ照明を採用した。

・今回も揺らぎ照明を入れることは可能であり、入れないことも可能である。

・揺らぎを入れた方がほのかな感じがするような思いはある。

委員 ・夜見ると、現況の賀茂大橋の照明色はものすごく赤過ぎる。橙がきつく、おどろおどろした印象を受けるので、B 案の方がよいかと思う。

- 委員 ・私もそう思う。少し赤過ぎる。
- 委員 ・C 案は寒々とした感じがする。
- 委員 ・LED ランプは少し光が弱いので、B 案の淡い橙色は、少し離れて見ると白みがかかった色にならないかという心配がある。
- 委員 ・北大路橋の時も A 案のようなイメージで計画していたが、実際は橙色の光が優しく、やわらかい感じがする。
- 委員 ・この資料の印刷どおりに橙色が本当に出るかどうか心配である。
- 委員 ・委員の皆様のご意見は、おそらく今の色がきつ過ぎるので、もう少し抑えた色にした方がよいとの方向に思いますので、A 案と B 案の実際の色を確認して選ぶ方がよいと思う。
- 事務局 ・委員の皆様のご意見を踏まえ、B 案を基本として今後検討を進めていきたい。
- 委員 ・また、桁の塗装色と同じく、工事の段階で、少し離れたところからでも橙色であることが確認できるか現地で委員に確認してもらい、意見を伺えるようにしたい。

8 事務局より資料説明

- ・議題 2 前回からの継続検討事項 道路照明について 資料 6, 7の説明

9 意見交換

- 委員 ・市電が走っていた当時の架線柱の写真を見ると、奇抜なデザインにしていたと感じた。当時のものに比べると C 案は全体におとなしく見える。
- 委員 ・B 案のような形はどこにでもありそうな形である。昔この橋に市電が走っていたことを語り継ぐという意味で C 案がよいかと思う。
- 委員 ・八角柱と円柱では大分コストが違うのではないか。
- 事務局 ・C 案の八角柱は、北大路橋の時の型をメーカーで保存しているので、これが使えるのであればかなりコストは下がる。単純に八角柱と円柱を比較すれば、円柱の方が安い。
- 委員 ・上に擬宝珠を乗せている C 案の方が面白いと思う。
- 委員 ・片側に何灯くらい建てるのか？
- 事務局 ・片側各 2 灯、合計 4 灯を千鳥型に配置する計画である。
- 委員 ・この照明の色は白なのか？
- 事務局 ・LED ランプを使うので白となる。
- 委員 ・形態の面では B 案はすっきりしているのかもしれないが、市電時代の記憶とか思い出を後世に残すのであれば C 案となる。
- 事務局 ・今の若い世代は、賀茂大橋に市電が走っていたことを知らない人が多い。市電のイメージを残すことがこの場所でできればとの意見もいただいております。今後 C 案を基本に検討を進めていきたい。

1.0 事務局より資料説明

- ・議題2 前回からの継続検討事項 石製高欄の嵩上げ方法について 資料 6, 7の説明

1.1 意見交換

- 委員 ・擬石調塗装の耐用年数はどれぐらいか。
- 事務局 ・施工後約8年経つ北大路橋を見る限り、当初に比べて若干劣化しているが、擬石調の風合いが無くなっているわけではない。10年以上は持つと考えている。
- ・北大路橋と同様に、石製高欄の外側（川側）についても、床版側面も含めて擬石調塗装を施す予定である。
 - ・北大路橋の写真を見れば、賀茂大橋も、石製高欄の内側（歩道側）、外側（川側）ともに違和感無く施工はできると考えている。
 - ・品質の確保が可能であることや、コスト面も考え、高欄は、擬石調塗装を施したコンクリートで嵩上げすることで今後検討を進めていきたい。

1.2 事務局より資料説明

- ・議題2 前回からの継続検討事項 賀茂大橋東詰の交差点について 資料 6, 7の説明

1.3 意見交換

- 委員 ・非常によく工夫されていると思われるが、親柱をずらすことにより南北の通りが良くなり、自転車がスピードを出して、逆に危険度が増すというようなことはないかという心配がある。
- ・警察との協議はするのか。
- 事務局 ・まだ警察等の関係機関との協議は行えていない状況であり、今回の案の実現性も含め、今後の関係機関協議を進めていく中で対応策の検討を進めていきたい。

1.4 閉会

これまでの2回のデザイン検討会議を通じて、すべての議題について様々な御意見を伺うことができたため、今回の会議をもって賀茂大橋デザイン検討会議を閉会することを伝えた。また、今後の関係機関協議や予算の都合等で、デザインの方向性が変わる場合は、再度各委員に説明する旨を伝えた。

(以上)